

日蓮と法華の名宝 図録正誤表

16頁	18行目	水谷 ^二 亜 ^一 紀 → 水谷 ^二 亜 ^一 壺
16頁	20行目	田中 ^二 健 ^一 → 田中 ^二 健 ^一
71頁	10行目	御書・彫刻 ^二 絵画 ^一 ・類 → 御書・彫刻 ^二 ・絵画 ^一 類
114頁	図版<101>のキャプション	巻 ^二 第八 ^一 → 巻 ^二 第七 ^一
218頁	上段5行目	徒 ^二 前 ^一 より → 徒 ^二 前 ^一 より
223頁	上段10行目	上 ^二 業 ^一 → 浄 ^二 行 ^一
224頁	上段24・32・33行目	富山 ^二 ・本 ^一 法寺 → 富山 ^二 ・大 ^一 法寺
243頁	下段9行目	仏教美術 ^二 天 ^一 → 仏教美術 ^二 展 ^一
246頁	上段11行目	画面 ^二 左 ^一 下隅に「日親(花押)」、画面 ^二 右 ^一 下隅に → 画面 ^二 左 ^一 下隅に「日親(花押)」、 ^二 左 ^一 下隅に
246頁	中段16行目	天照 ^二 大明 ^一 神 → 天照 ^二 大 ^一 神
250頁	中段29行目	妙 ^二 顕 ^一 寺 ^二 二世 ^一 → 妙 ^二 顕 ^一 寺 ^二 四 ^一 世
251頁	中段28行目	安立 ^二 行 ^一 ・上 ^二 行 ^一 → 安立 ^二 行 ^一 ・浄 ^二 行 ^一
253頁	中段27行目	江戸城での宗論に ^二 破 ^一 れ、 → 江戸城での宗論で ^二 一 ^一 方的に ^二 負 ^一 けと ^二 さ ^一 れ、
259頁	上段1行目	そのとき ^二 太 ^一 陽から → そのとき ^二 太 ^一 陽から
259頁	上段3行目	鳥影の ^二 太 ^一 陽から → 鳥影の ^二 上 ^一 の ^二 光 ^一 球から
264頁	中段33行目	画面中央 ^二 右 ^一 寄り → 画面中央 ^二 左 ^一 寄り
271頁	中段25行目	妙 ^二 顕 ^一 寺 ^二 三 ^一 世 → 妙 ^二 顕 ^一 寺 ^二 五 ^一 世
278頁	下段12行目	渡 ^二 来 ^一 僧であつた → 中 ^二 国 ^一 天 ^二 台 ^一 六 ^二 祖 ^一 の
286頁	下段11行目	(一五 ^二 九 ^一 二 - 一六 ^二 〇 ^一 九) → (一五 ^二 二 ^一 九 - 一六 ^二 〇 ^一 九)
287頁	中段25行目	自 ^二 影 ^一 → 自 ^二 題 ^一
293頁	下段15行目	三 ^二 長 ^一 者 ^二 一 ^一 を中心 ^二 に → 三 ^二 長 ^一 者 ^二 を ^一 中心 ^二 に ^一
305頁	日蓮宗関連事項2行目	妙 ^二 顕 ^一 寺 ^二 四 ^一 世 → 妙 ^二 顕 ^一 寺 ^二 六 ^一 世
305頁	日蓮宗関連事項6行目	妙 ^二 顕 ^一 寺 ^二 五 ^一 世 → 妙 ^二 顕 ^一 寺 ^二 七 ^一 世
306頁	下段本願寺の項	卯木山 → 山号なし
英文Ⅶ頁	10行目	the Edo period (1603—1868) → the Edo period (1615—1868)
英文Ⅴ頁	26行目	Ken Tanaka → Ken'ichi Tanaka

備 考

- 306頁本願寺山号については、尼崎本興寺とともに山号がなく、両寺一貫首制を敷いており、一〇八世以降別置されるようになったというのが正確である。本願寺の山号を「卯木山」とする誤謬は、佐和隆研他編『京都大事典』（淡交社、1984年）・圭室文雄編『日本名利大事典』（雄山閣出版、1992年）・『京都の寺社505を歩く』PHP新書（2007年）等で確認され、かなり蔓延している。ここに誤記を謝すとともに、誤謬の拡大再生産に終止符を打つため、特記する次第である。
- 妙顕寺歴世であるが、歴史学では開山日像を一世とする場合も多いが、寺院では日蓮を一世、日朗を二世に勧請し日像を三世として数えており、上記訂正は後者で統一を図ったことを、注記しておく。